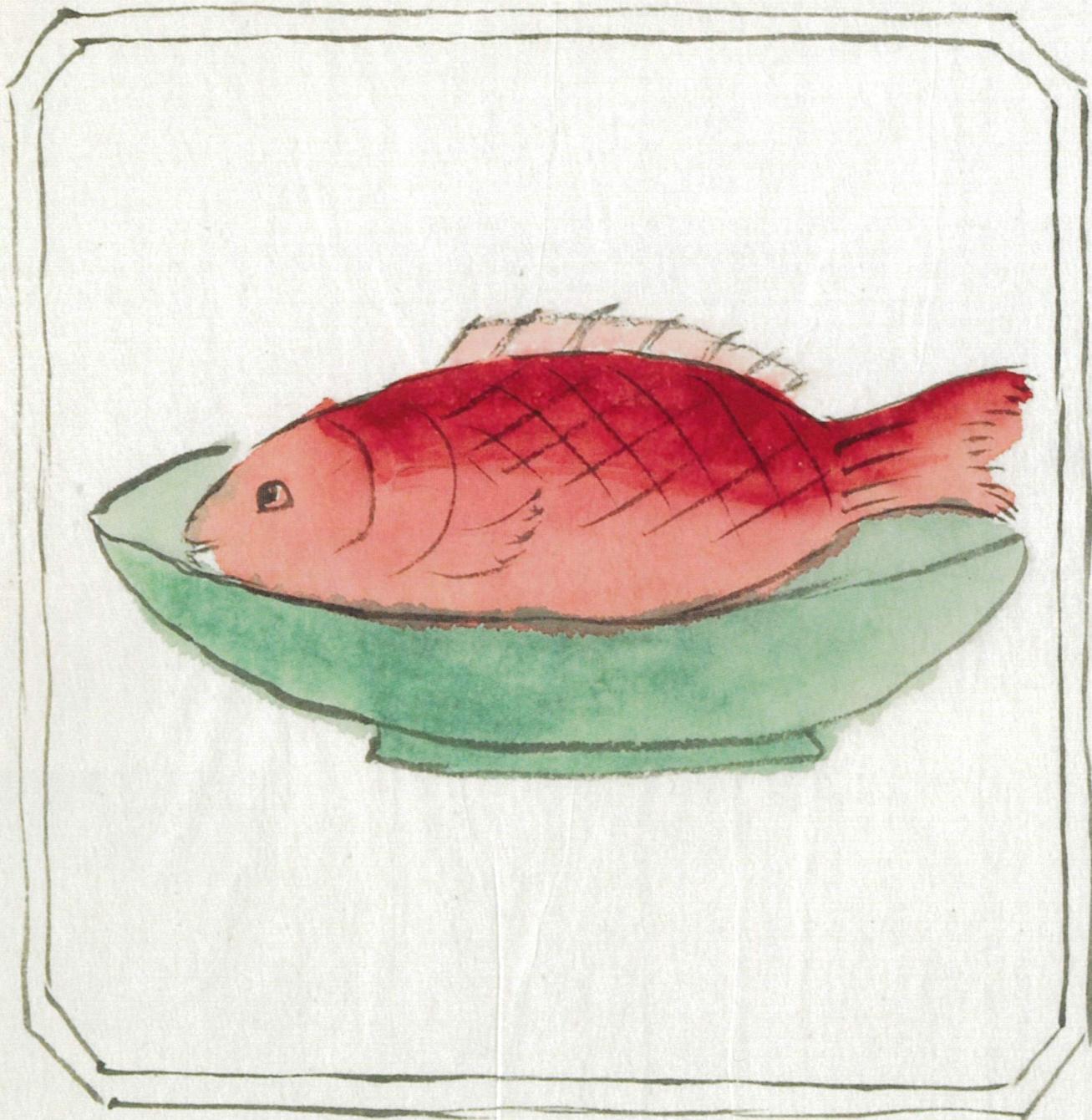


og
Rō
A

2023年3月 文京区立森鷗外記念館編集・発行(年4回発行)

文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.42



鷗外自筆写本『膳部之事』より 東京大学総合図書館蔵

目次

巻頭コラム「記念の一年—享受から創造へ—」倉本幸弘(森鷗外没後100年記念事業実行委員長、森鷗外記念会常任理事)／展示報告／カフェ便り／展示のお知らせ 特別展「鷗外の食」／特集「『森鷗外～ゆかりの地文学フォーラム』を終えて」／これからの催しもの／主な寄贈図書一覧／2023年度前期開館カレンダー／編集後記

記念の一年——享受から創造へ——

倉本幸弘（森鷗外没後100年記念事業実行委員長、森鷗外記念会常任理事）

昨年は鷗外生誕一六〇年、没後一〇〇年という記念の年でした。文京区立森鷗外記念館を中心に、いくつもの記念行事が開催されました。その一年を振り返って、その主題を大きくまとめるに、私たちはどうのように鷗外を享受するか、そして、これから私たちはどのように鷗外を受け継いでいくかという問いかけであつたと、私は、思います。

年明けから始まった特別展「写真の中の鷗外人生を刻む顔」において、鷗外の少・青年期の顔としての顔、芸術家としての顔、軍医としての顔、家庭の人としての顔、そしてそれらが統合された晩年の顔を、私たちを見ました。つまり、鷗外がどのような人であったかのトータルなイメージをそこに結ぶことができました。次に、それを受けるようにして「読み繼がれる鷗外」という主題のもとに新しい展示があり、それと平行するよう様々な場所で、いくつもの講演会やシンポジウムが開かれ、作家、詩人、歌人、劇作家など、主に創作に携わっている方たちの対話があり、今日の芸術家たちが鷗外をどのように享受してきたか、そして自らが、それをどのような作品として創造していくかが語られていました。

鷗外に関する書籍の出版も相次ぎ、長い年月をかけた研究成果を世に問う書、あるいは、気鋭の研究者や作家、劇作家、詩人が、今なお、鷗外が投げかけてくる問題を明らかにする書を著し、それに呼応するかのように、書店には鷗外自身の作品、鷗外に関する研究書や解説書などが並ぶコーナーが設置されてもいました。

記念の年の最後の特別展示として「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」は、これまで収集、保存されてきた資料のみならず、新たに発掘された資料が展示され、再度、鷗外が遺したものやことを、私たちが、どう享受し、どう受け継ぎ続けていくかを、もう一度、わたしたちに聞いかけます。

そして、時を同じくして開催された、鷗外研究の最前線に立つ研究者による学術講演会は、その新たに出現した資料の姿と意義を私たちに語りかけてくれるものでした。それらは全

て、森鷗外の「遺産」を古典の中に静かに落ち着かせようとするのではなく、それを、今日に活ける芸術として、思想として位置付けていこうとするものであったといえます。

以上のように、今年一年を総括してみて、私個人は、そうした主題の一つの例として、二つの出来事を思い出すのですが、その一つは、昨年、一年にわたって、街路にはためき続けた鷗外の横顔をデザインしたフラッグの制作です。これは文



京区が、区内にある都立工芸高校の生徒さんたちに作成を依頼したものでした。経験上、私は多少、知っているのですが、今日の若者たちも若者たちだけとは限りませんが、は、鷗外についてほとんど知らないか、知つてはいるが進んで興味を持とうとはしないという現実があります。そうした若者たちに、鷗外の記念の年を告げ知らせるシンボルの作成を託したのでした。鷗外には、すでに固定化したイメージがいくつもあり、彼らはそれらを一旦、自分の内側に取り込み、その上で、組み替えたり、時には破壊したりと、既成の固定化したイメージとの格闘を繰り返し、彼ら自身の鷗外像を懸命に創造しようとする作業があります。それは、享受(畏敬、反発や否定をも含み)みつけられたと想像されます。彼らは、享受したはずです。そのような作業を経て、これまでにない「鷗外」のイメージがいくつも出現し、街路にはたまくフラッグになり、ポスターになり、いく種類かの製品になつて、私たちの目に触れ続け、私たちの中に、新しい鷗外のイメージが定着していきました。

今、一つは、森鷗外記念会が主催した若い人たちのイベントです。鷗外についての関わりが弱くなっている今日の若い人たちに、なんとか、鷗外との関わりを持つてもらうこと意図したもので、詩や小説を書いている若者を呼び集め、イベントの企画や運営の全てを任せたといったものでした。呼びかけに応じて、三十人もの若者が集い、「Ogai Remix Party」という名の集団を組織し、私たちが思いつきもしないような企画を立てたのです。その主旨は、森鷗外の文学を享受し、が定着していきました。

鷗外が私たちに遺したものやことを受け取り、それらを受け継いでいくという営みの、その一つの姿は、ここにあげた二組の若い人々の営みと作品が示すようなものではなかつたかと、私は思います。畏敬とともに、批判や否定までをも含み込んで、享受し、それをもとに、自らの新たな作品を創造するという営みが、既成の文化を継承しつつ、変化させていくという営みではないのかと改めて考えさせられました。二組の若い人々に心から感謝したいと思っています。

鷗外が私たちに遺したものやことを受け取り、それらを受け継いでいくという営みの、その一つの姿は、ここにあげた二組の若い人々の営みと作品が示すようなものではなかつたかと、私は思います。畏敬とともに、批判や否定までをも含み込んで、享受し、それをもとに、自らの新たな作品を創造するという営みが、既成の文化を継承しつつ、変化させていくという営みではないのかと改めて考えさせられました。二組の若い人々に心から感謝したいと思っています。

展示報告

2022年は、森鷗外生誕160年没後100年、そして当館開館10周年の記念年でした。この節目にあつて、当館では2

022年1月から12月にかけてさまざまな展覧会やイベントを開催いたしました。関係各位のご協力とご支援により、無事に終了いたしましたこと、あらためて御礼申し上げます。ここでは、展覧会を中心にして1年間を振り返ります。

記念事業の展覧会は、特別展「写真の中の鷗外人生を刻む顔」（会期2022年1月9日～4月17日）からスタートしました。写真には第二弾として、現在活躍中の作家や研究者による鷗外の読み解きを紹介した特別展「読み繼がれる鷗外」（会期2022年4月23日～7月31日）を開催しました。9

名による読み解きは「いま鷗外を読むこと」への導きとなり、未読者には鷗外作品と出会う機会につながり、愛読者には新たな視点と他作品への関心を呼び起こしたこと信じています。

続く第三弾は、コレクション展「鷗外の東京の住まい」（2022年8月5日～10月16日）です。10歳で上京した鷗外が死去する60歳まで暮らした東京の住まいを紹介し、終焉の地・觀潮跡地が戦後に顯彰の地として蘇り、当館に至る軌跡を辿りました。文京区入館料助成キャンペーンの後押しもあり、区民の方々に多く観覧いただけたことは大変嬉しく、この地が持つ履歴とあわせて「地域とのつながり」をいつそう大切に感じました。

春には第二弾として、現在活躍中の作家や研究者による鷗外の読み解きを紹介した特別展「読み繼がれる鷗外」（会期2022年4月23日～7月31日）を開催しました。9

料が伝える心の軌跡」（2022年10月22日～2023年1月29日）では、鷗外直筆原稿や鷗外宛書簡など、近年発見された直筆の新資料を展覧しました。推敲跡や手跡が当時を鮮烈に伝える直筆資料。書き手の想いに引き込まれて、資料にじっくりと向き合う観覧者が目立ちました。出品総数80点の



展覧会図録など 左上より時計回りに
特別展『写真の中の鷗外人生を刻む顔』
A4判 88頁 税込1,200円
特別展『読み繼がれる鷗外』
本編 B5変型判80頁、資料編：A4判32頁 二冊組 税込1,500円
コレクション展『鷗外の東京の住まい』ミニ展示ガイド
B5判 12頁 税込300円
特別展『鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡』
A4判 税込1,200円

それをおもに、自分の言葉で新たに創作し、その作品を朗読の形で発表するというもので、その際、各々の作品を別のメンバーが朗読する——というものでした。そこには発表した瞬間に、互いに評価し合いながらさらには制作を依頼したものです。彼らはそれらを一旦、自分の内側に取り込み、その後、組み替えたり、時には破壊したりと、既成の固定化したイメージとの格闘を繰り返し、彼ら自身の鷗外像を懸命に創造しようとする作業があります。それは、享受(畏敬、反発や否定をも含み)みつけられたと想像されます。彼らは、享受したはずです。そのような作業を経て、これまでにない「鷗外」のイメージがいくつも出現し、街路にはたまくフラッグになり、ポスターになり、いく種類かの製品になつて、私たちの目に触れ続け、私たちの中に、新しい鷗外のイメージが定着していきました。

今、一つは、森鷗外記念会が主催した若い人たちのイベントです。鷗外についての関わりが弱くなっている今日の若い人たちに、なんとか、鷗外との関わりを持つてもらうこと意図したもので、詩や小説を書いている若者を呼び集め、イベントの企画や運営の全てを任せたといったものでした。呼びかけに応じて、三十人もの若者が集い、「Ogai Remix Party」이라는 이름의 집단을 조직하고, 우리는 그들이 문학을 즐기면서 그들의 작품을 전시했습니다. 그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

それが「創造的な形」으로 표명되는 것입니다. 그래서 우리는 그들이 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

그들은 그들의 작품을 통해 예술을 창조하는 것을 목표로 했습니다.

た割で藩領内の一一番端の約280坪へ移されます。転居を重ねて藩邸に近づきますが

現在残る生家は約200坪。森家は元々馬廻役ですが鷗外は「ヰタ・セクスアリス」で父は徒士だと書いています。つまり鷗外が生まれた時には家が小さくなり身分が下がっているのです。

実は、平成17年まで森家に分家があるとされているのですがと家系図を持ち込まれ、それを読み解いて初めて大変な事が判明してきます。鷗外の曾祖父の長男は早逝します。次男の覚馬は西家の養子となります。覚馬が西周の父親に当たります。

三男の秀菴が家を継ぎます。しかし「本分家」には「曾祖父に子がなかつたので」とあつて鷗外はこの三男の存在を抹殺します。なぜか。森家の作る胃腸薬の材料の偽装が発覚して森家は閉門、秀菴は出奔してしまいます。そこで鷗外の祖父にあたる佐田白仙が養子に入り、妻を山口の木嶋家から迎えます。昔風に言えば取子取嫁で、新しい森家なんですね。

「博士の祖父から博士の母を通じて、一種の気位の高い、冷眼に世間を見る風と、平素実力を養つて置いて、折もあつたら立身出世をしよう」と云ふ志とが伝はつてゐた」

『本家分家』と書かれています。立身出世の志は分かりますが、なぜ冷やかな目で世間を見るのか。家系図から碌高を調べてみると事件前までは本家も分家も80石でした。本家は家の断絶が影響して馬廻役から徒士に2格もの降格と50石への減封。ところがこの時分家が90石、つまりおそらく本家のものを付け替えられた。これがもう屈辱的なんです。

これからの催しもの

4月30日(日)／5月14日(日)／5月28日(日)／6月11日(日)／6月25日(日) 各回 10:30～12:00
鷗外講座基礎編 「鷗外を読む、その人生に沿いながら」(連続5回)
講師:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場:講座室 定員:各回45名
料金:各回500円(資料代) ※ご応募は各回ごとでお願いします。

4月23日(日) 11:00～17:00
文の京ワークショップ/ふみの日イベント
「ベルリン森鷗外記念館へエアメールを書こう!」
会場:エントランス 料金:無料
ドイツ・ベルリンの森鷗外記念館や海外のお友達へハガキを送ってみませんか。

6月10日(土) 14:00～15:30
展示関連講演会
「文京区をめぐる作家の〈食〉と文学」
講師:大本泉氏(仙台白百合女子大学教授) 会場:講座室
定員:50名 料金:無料 ※本展観覧券(半券可)
申込締切:5月26日(金)必着

◆上記イベントの申込方法◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間に以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@morigai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

〈館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております〉

〔館内にて新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。ご来館の際は、事前にHPをご覧いただき、お電話でお問い合わせください。体調のすぐれない方の来館はございません。〕

新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。ご来館の際は、事前にHPをご覧いただき、お電話でお問い合わせください。

家再興、何とか分家を超えて、小さくなつた

家を大きくしていくこと。藩校養老館で7歳の鷗外が『童蒙入学門』を一字一句丁寧に

写した字が残っています。後に10歳の筆で

目次を付けたということも分かつてきました。立身出世をする要請に応えるには、人

を蹴落としていくような柔らかい心がないといけない。ところが鷗外という人はそ

ういう人じやないところに悲劇がある。鷗外は終生、草花を愛するような柔らかい心を

本質的に持つていた。「名を聞いて人を知らぬと云ふことが随分ある。人ばかりではなく

いた。すべての物にある』(サフラン)と書いています。鷗外は名と物を何とか一致させようと思う。東京大学を出た時に作った漢詩でも、学士という名譽と実質が本当に合っているだろうかと自問する。「勉強する子供から、勉強する学生、勉強する官吏、勉強する留学生といふのが、皆その役である』(妄想)という。この自分の人生は役を務めている、舞台から降りて素顔の自分に出会いたいといふ50歳近くで言つています。そういう鷗外だということをとにかく知つてほしい。津和野の200坪の観潮樓は330坪の一番大きな家になりました。そういう鷗外の出発点について語りました。

須田 津和野で生まれ育われたものが、後年の文學学者森鷗外、陸軍軍医監査としての森林太郎に結実してゆくということをと

いています。最後に「鷗外と語るまち・東京都文京区」ということで本郷三丁目から文京区立森鷗外記念館までの文学散歩をお話しします。

●文京区「鷗外と語るまち」『青年 第一章を見ながら主人公の小泉純一ですから嫡男の鷗外に託されたことは森

一の気持ちで歩いてみてください。漱石『三四郎』にもあります、「写真の明治37年、東京大学の前には、うるさいから」ということ

で電車が通つておりません。本郷三丁目から本郷追分までまつすぐに電車が通るのは大正2年になつてからで、東京が大きく変わることの一つの目安になると思います。

『青年』がスバルに連載されたのは明治43年3月からですが、小説の中の時間は伊藤博文がハルビンで暗殺された明治42年10月26日だと規定できます。鷗外は意識的にそ

の歴史的な転換点の日に設定したのだろうと思ひます。したがつてこの写真的光景は、小泉純一が歩いた時の風景と言つていいと

思います。

現在の東京大学総合図書館、そして当時の第一高等学校、今の東大農業部の先を右へ入つて、いきますと、小泉純一が訪ねていつた下宿屋があるので、目的の人物・大石路花に会えずにそこから「S坂」を降りていきます。現在、この坂を「S坂」と呼ぶ由来が「青年」にあるという案内板が立つてあります。根津神社には鷗外が日露戦争後に出会ひたいといふ50歳近くで言つています。そういう鷗外だということをとにかく知つてほしい。津和野の200坪の観潮樓は330坪の一番大きな家になりました。そういう鷗外の出発点について語りました。

須田 津和野で生まれ育われたものが、後年の文學学者森鷗外、陸軍軍医監査としての森林太郎に結実してゆくということをと

いています。最後に「鷗外と語るまち・東京都文京区」ということで本郷三丁目から文京区立森鷗外記念館までの文学散歩をお話しします。

●文京区「鷗外と語るまち」『青年 第一章を見ながら主人公の小泉純一ですから嫡男の鷗外に託されたことは森

鷗外という作家が、今どういうふうに受け止められているか、あるいはその足跡か

さまざまの視点から鷗外についてご紹

介いただきました。当日のお話からは、各地で生活していた生身の鷗外の姿が見えてくるものについて、小倉、津和野、文京区、それぞれゆかりの地という視角か

いる敷石の上に立つてみてください。觀潮樓からは東京湾の海が見えたということですが、現在は真っ正面にスカイツリーが見えますので、これもまたちょっと面白いところです。

鷗外という作家が、今どういうふうに受け止められているか、あるいはその足跡か

さまざまの視点から鷗外についてご紹

介いただきました。当日のお話からは、各地で生活していた生身の鷗外の姿が見えてくるものについて、小倉、津和野、文京区、それぞれゆかりの地という視角か

いる敷石の上に立つてみてください。觀潮

土地にのこる鷗外、作品から探る鷗外、

さまざまな視点から鷗外についてご紹

介いただきました。当日のお話からは、各地で生活していた生身の鷗外の姿が見えてくるものについて、小倉、津和野、文京区、それぞれゆかりの地という視角か

2023年度前期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

4月						
日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

コレクション展「鷗外の『水沫集』 第一作品集に込めた詩想」
2月3日(金)～4月2日(日)

2月5日(金) - 4月2日(日)

特別展「鷗外の食」

特別展・鬱洋の食」
4月8日(土)~7月9日(日)

コレクション展「森茉莉・生誕120年」(仮称)
7月14日(金)~10月1日(日)

 鷗外忌記念「遺言書」オリジナル展示
7月1日(土)～7月31日(月)

開館情報は予告なく変更になる場合があります。
詳しくは当館までお問い合わせください。

ナーをめぐるツアーで、土日祝14時の実施を予定しています。また、4月中に、館内図書室を予約なしでご利用いただける通常開室を再開します。いずれも詳細が決まり次第、当館HPで告知いたします。ますます気軽にお出掛けになります。

編集後記

去る1月12日、当館名誉館長の加賀乙彦先生が93歳で老衰のため逝去されました。2012年の開館から名譽館長を務めました。生前の当館へ寄せる功績に謹んでご冥福をお祈りいたします。



交通案内

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
 - ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
 - ・JR線・京成線「目暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分

※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00（最終入館は17:30）
休館日 毎月第4火曜日（祝日の場合は開館、その他例外あり）。
年未年始（12月29日～1月3日）、及び展示替期間、煙草期間等

印刷物番号 D0133055



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum